

第2 非行少年・若年犯罪者の生活意識等

1 家庭関係

(1) 家庭生活に対する満足度

Q1 あなたは、家庭生活にどのくらい満足していますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

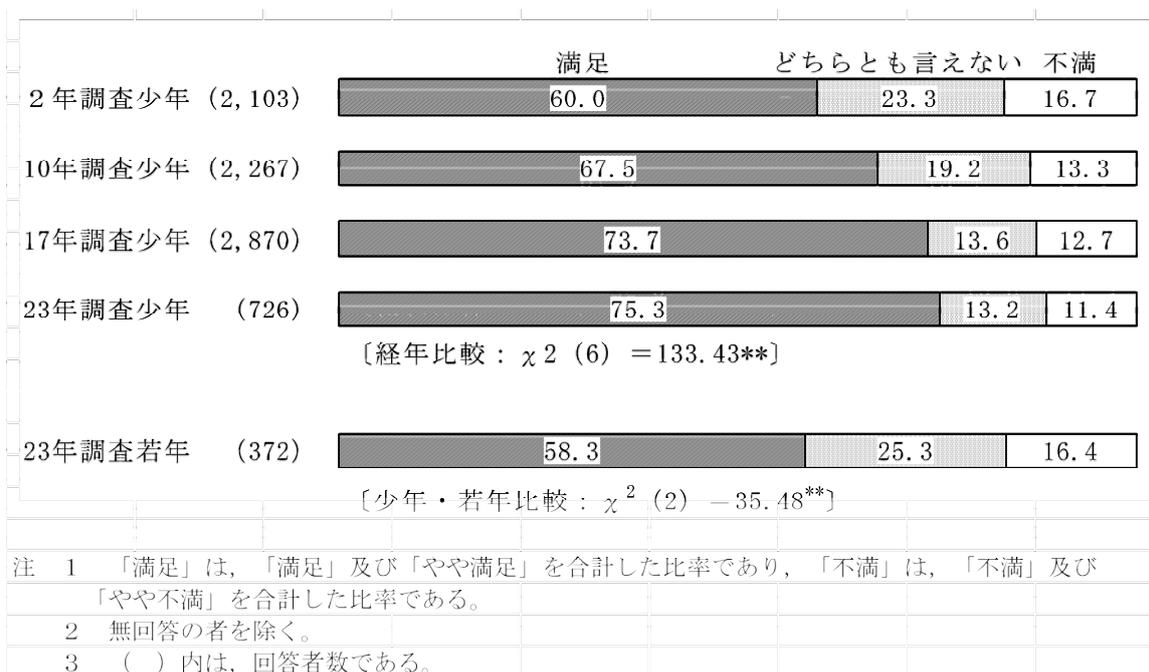
ア 経年比較等

2-1-1図は、家庭生活にどのくらい満足しているかを経年比較したものである。家庭生活に対する満足度を「満足」（「満足」及び「やや満足」の合計。以下同じ。）、「どちらとも言えない」、「不満」（「不満」及び「やや不満」の合計。以下同じ。）の3カテゴリーに統合し、これまでの3回の調査結果との間でクロス集計を行ったところ、「満足」の構成比が上昇傾向にあり（今回75.3%）、非行少年においては、家庭生活に対する満足度が高まっていることがうかがえる。

なお、今回調査において、非行少年と若年犯罪者の満足度を比較すると、「満足」の構成比は、非行少年に比して、若年犯罪者は有意に低く、「どちらとも言えない」、「不満」の構成比は、いずれも有意に高かった。

さらに、非行少年、若年犯罪者それぞれについて、男女の差を見たところ、非行少年においては、「満足」は男子が有意に高く（男子77.6%、女子58.6%）、「どちらとも言えない」は女子が有意に高かった（男子11.7%、女子24.1%）（ $\chi^2(2) = 15.49^{**}$ ）。若年犯罪者においては、男女で有意差は見られなかった（ $\chi^2(2) = 2.39^{ns}$ ）。

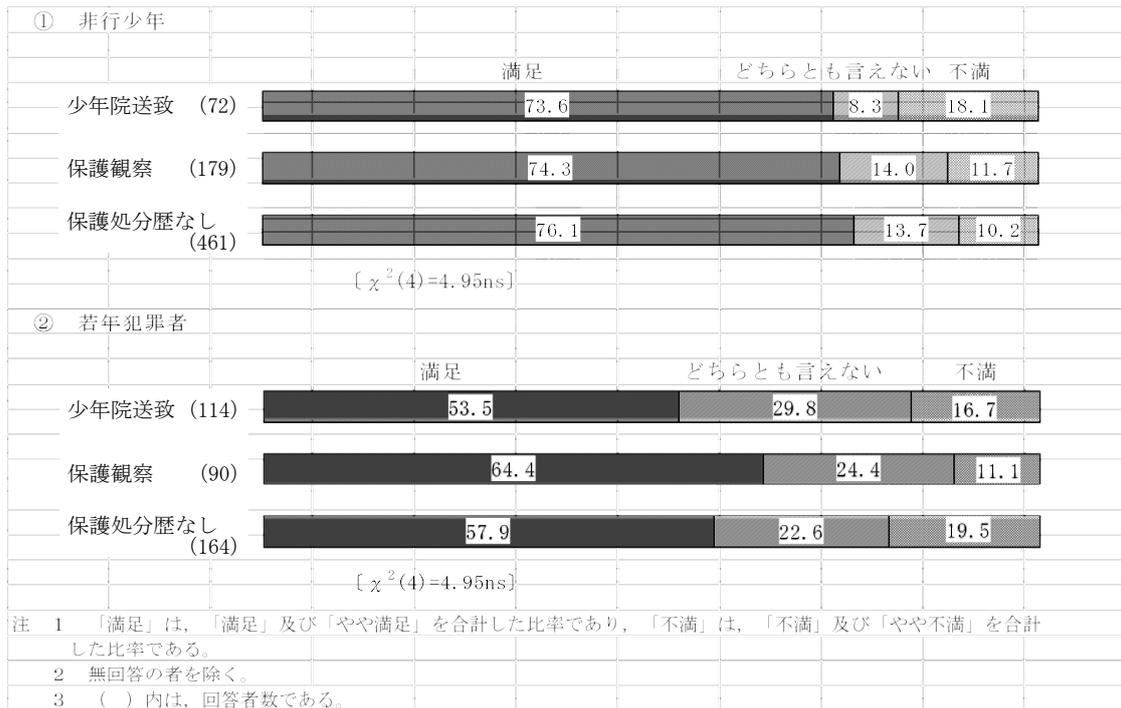
2-1-1 図 家庭生活に対する満足度（経年比較等）



イ 保護処分歴別の比較

2-1-2 図は、家庭に対する満足度を非行少年，若年犯罪者のそれぞれについて，保護処分歴別に見たものである。非行少年，若年犯罪者共に，有意差は見られなかった。

2-1-2図 家庭生活に対する満足度（保護処分歴別）



(2) 家庭生活での不満の理由

Q1b 「やや不満」、「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。次の中であてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

- 1 家庭に収入が少ない
- 2 家庭内に争いごとがある
- 3 親の愛情が足りない
- 4 親が自分を理解してくれない
- 5 病人がいる
- 6 きょうだいと気が合わない
- 7 家の周囲の環境が悪い
- 8 家が狭すぎる
- 9 ただなんとなく
- 10 その他 ()

※本問は、Q1で「やや不満」又は「不満」と回答した者に対してのみ質問している。

ア 経年比較等

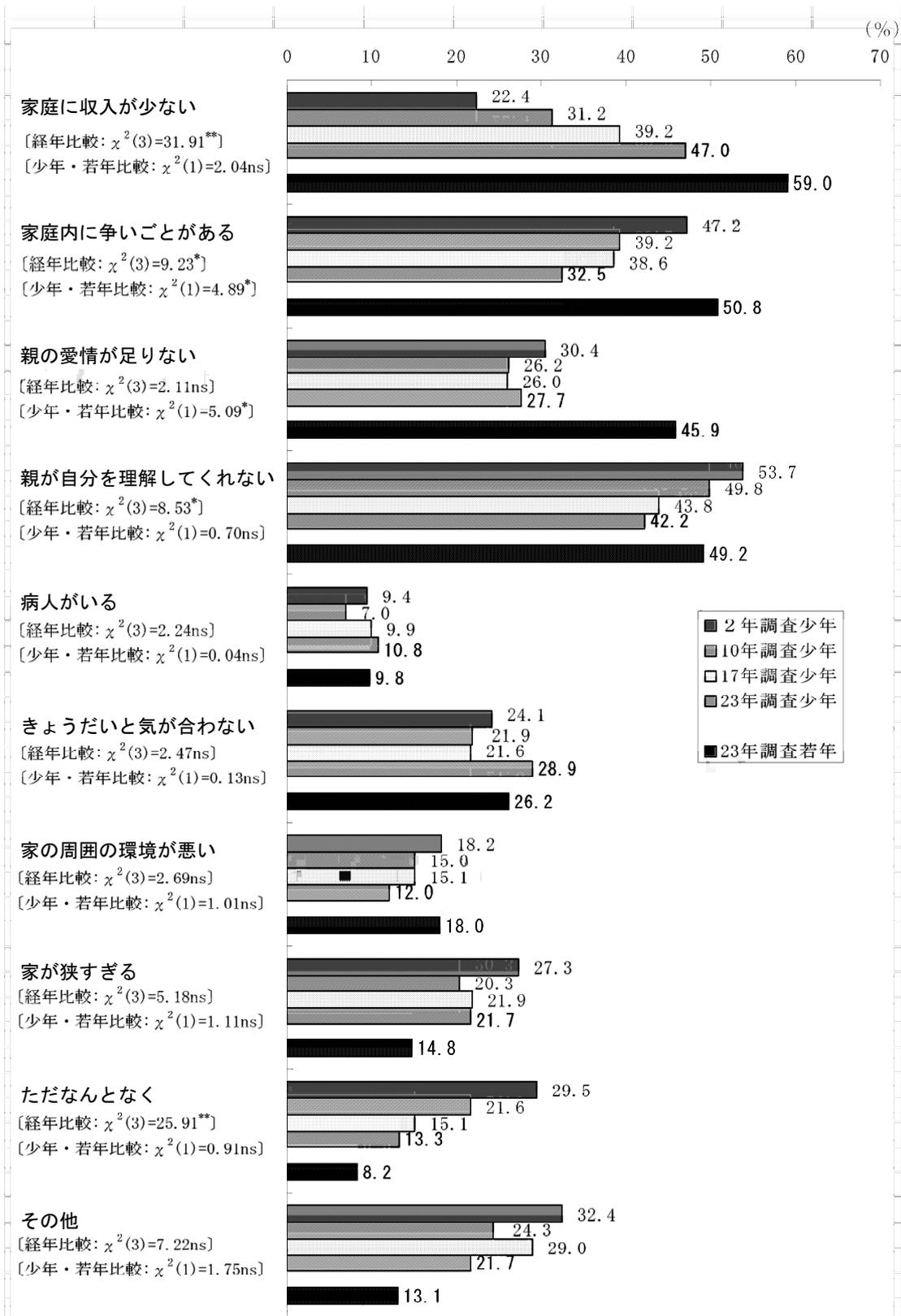
2-1-3図は、家庭生活での不満の理由として、各項目を選択（複数回答）した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を経年比較したものである。

過去3回の調査において選択率が最も高かった「親が自分を理解してくれない」は、今回調査では2位（42.2%、17年調査に比して1.7pt（「ポイント」の略記であり、比率の差をいう。以下、同じ。）低下）であった。代わって、今回調査の1位は、17年調査において2位、10年調査において3位であった「家庭に収入が少ない」（47.0%、同7.8pt上昇）であり、経済的不満が大きくなっていた。3位は、17年調査と同様に「家庭内に争いごとがある」（32.5%、同6.1pt低下）であり、「きょうだいと気が合わない」（28.9%、同7.3pt上昇）、「親の愛情が少ない」（27.7%、同1.7pt上昇）が続いている。

また、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別に、選択率を比較すると、若年犯罪者において選択率が有意に高かったのは、「家庭内に争いごとがある」及び「親の愛情が足りない」の2項目であった。非行少年において選択率が有意に高かった項目はなかった。

なお、非行少年、若年犯罪者のいずれにおいても、男女で有意差のある項目はなかった。

2-1-3図 家庭生活に対する不満の理由（経年比較等）



注 1 Q1において「不満」（「不満」及び「やや不満」と回答した者に占める各項目を選択した者の比率である。

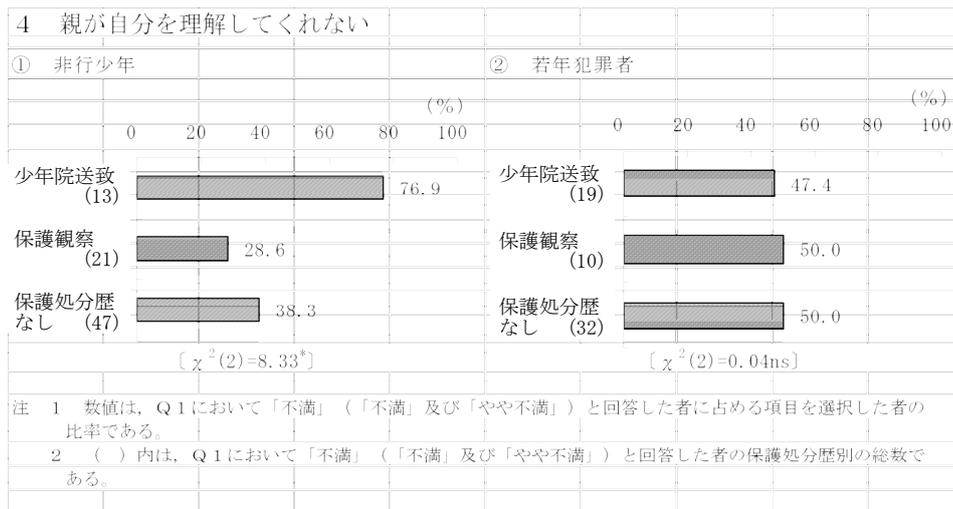
2 上限のない複数回答である。

3 「その他」は、借金、暴力等である。

イ 保護処分歴別の比較

今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に、家庭生活に対する不満の理由について保護処分歴別にクロス集計を行ったところ、非行少年においては、2-1-4図のとおり、「親が自分を理解してくれない」において、有意差が見られ、少年院送致歴を有する者が有意に高かった。若年犯罪者においては、いずれの項目においても、有意差は見られなかった。

2-1-4図 家庭生活に対する不満の理由（保護処分歴別）



(3) 家族との関係

Q2 あなたは家の中で、次のこと（ア～キ）を感じたり思ったりしたことがありますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- ア 家族との話を楽しいと感じることが・・・
- イ 家では自分の部屋にひとりでいたいと思うことが・・・
- ウ 自分の将来について、親に話したいと思うことが・・・
- エ 自分が何をしても、親があまり気にしないと感じることが・・・
- オ 親がきびしすぎると感じる・・・
- カ 親のいうことは、気まぐれであると感じることが・・・
- キ 親が自分のいいなりになりすぎると感じる・・・

(選択肢)

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

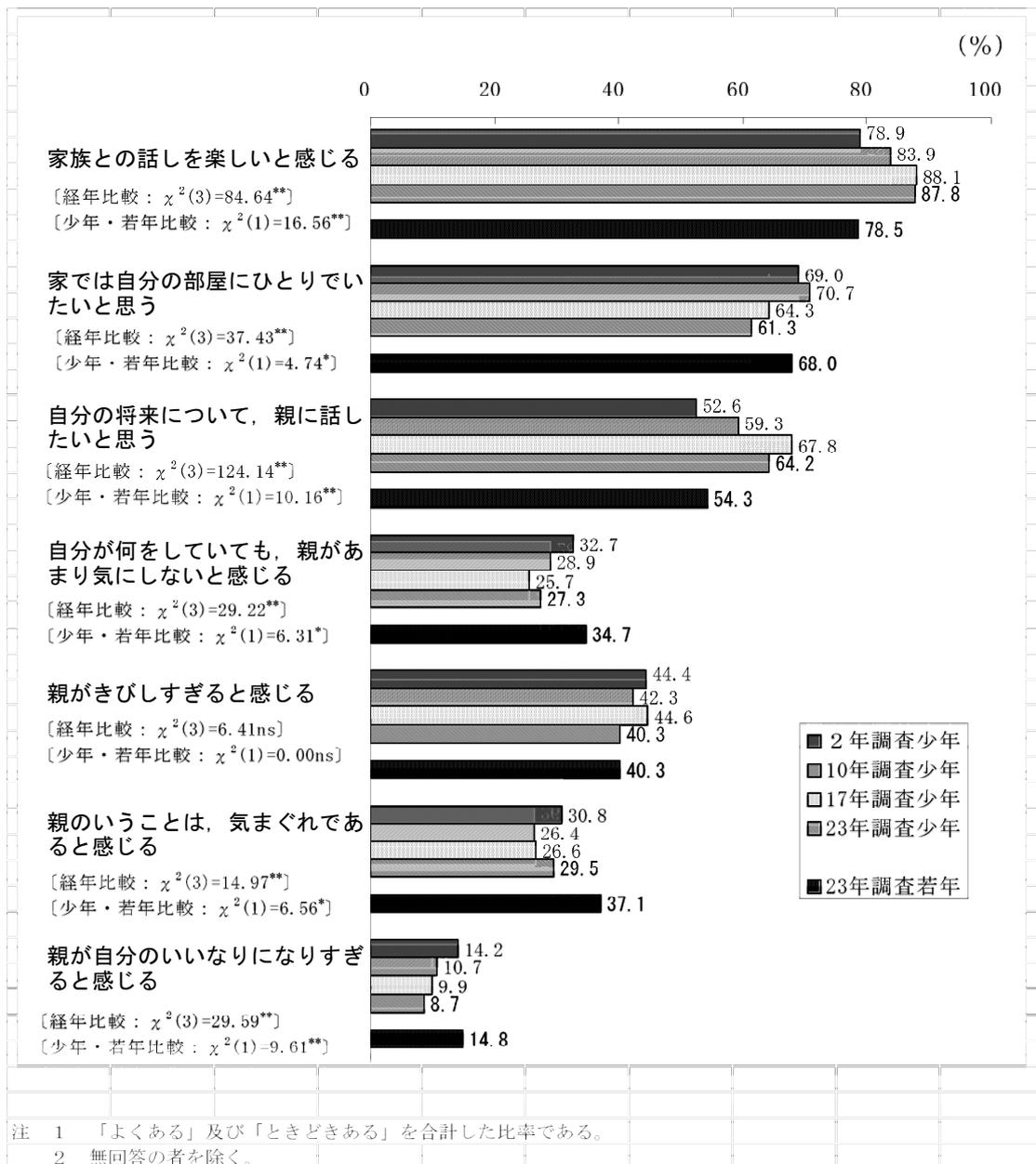
ア 経年比較等

2-1-5 図は、家族との関係に関する各項目について、「ある」（「よくある」及び「ときどきある」の合計。以下同じ。）と回答した者の比率（以下この項において「該当率」という。）を経年比較したものである。17年調査と比べて、該当率に5pt以上の上昇又は低下が見られた項目はなかった。今回調査において該当率が高かった項目は、「家族との話を楽しいと感じる」及び「自分の将来について、親と話したいと思う」であり、この2つの項目は、4回の調査を通じて上昇傾向にある。一方、該当率が低下傾向にある項目は、「家では自分の部屋にひとりでいたいと思う」、「自分が何をしても、親があまり気にしないとを感じる」及び「親が自分のいいなりになりすぎると感じる」である。総じて、家族との関係は親和的なものとなっていることがうかがえる。

また、今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に該当率を見ると、「親がきびしすぎると感じる」を除く全ての項目において有意差が見られ、若年犯罪者は、非行少年に比して、「自分の将来について親と話したいと思う」が9.4pt低く、「家族との話を楽しいと感じる」が8.6pt低いなど、家族に対して否定的感情が強いことがうかがえる。

さらに、非行少年、若年犯罪者それぞれについて、男女の差を見たところ、「親がきびしすぎると感じる」及び「親のいうことは、気まぐれであると感じる」について、非行少年、若年犯罪者のいずれにおいても、女子の方が男子に比して、該当率が有意に高かった（無回答の者を除く。非行少年において、それぞれ $\chi^2(1) = 10.51^{**}$ 、 $\chi^2(1) = 5.50^*$ 、若年犯罪者において、それぞれ $\chi^2(1) = 13.27^{**}$ 、 $\chi^2(1) = 9.68^{**}$ ）。

2-1-5図 家族との関係（経年比較等）

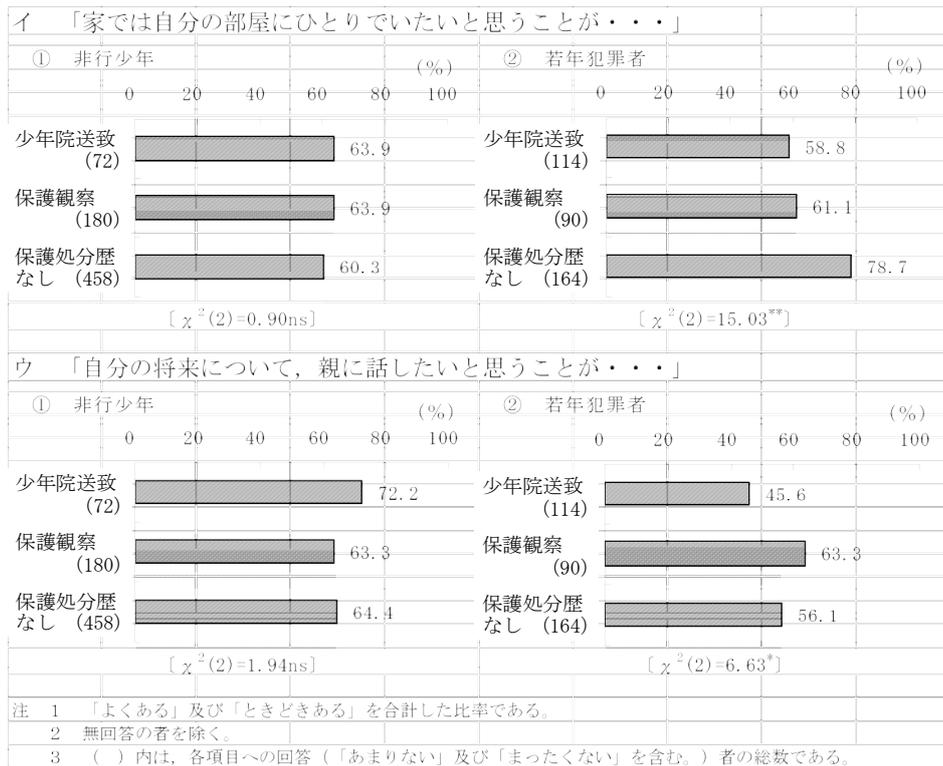


イ 保護処分歴別の比較

2-1-6図は、今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に、家族に対する不満の理由について保護処分歴別にクロス集計を行い、回答状況に有意差のあった項目について、該当率を見たものである。

非行少年では、保護処分歴による有意差は見られなかったが、若年犯罪者では、「家では自分の部屋にひとりでいたいと思う」について、該当率は、保護処分歴のない者において有意に高く、少年院送致歴を有する者において有意に低かった。また、「自分の将来について、親に話したいと思う」について、該当率は、若年犯罪者において、少年院送致歴を有する者が、有意に低かった。

2-1-6図 家族との関係（保護処分歴別）



2 交友関係

Q3 あなたは、友達づきあいにどのくらい満足していますか。
 次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

(1) 友人関係に対する満足度

ア 経年比較等

2-2-1図は、友人関係にどのくらい満足しているかについての回答を、「満足」（「満足」及び「やや満足」の合計。以下同じ。）、「どちらとも言えない」、「不満」（「やや不満」及び「不満」の合計。以下同じ。）の3カテゴリーに統合し、その構成比を経年比較したものである。「満足」と回答した者の構成比は、漸増傾向にあり、2年調査では70.2%であったところ、今回調査では77.7%であった。

今回調査において、非行少年と若年犯罪者の「満足」と回答した者の構成比を比較すると、非行少年に比して、若年犯罪者は有意に低く、60.2%にとどまり、「どちらとも言えない」、「不満」と回答した者の構成比は、いずれも有意に高かった。

また、非行少年、若年犯罪者のそれぞれについて、男女の差を見たところ、いずれにお